

タイの人々と仏教

マハーマクト仏教大学ランナー校

上座部の三相、大乘の四法印

上座部仏教の「三相」(ไตรลักษณ์)

- A あらゆる現象は、変化してやまない(無常)。
- B 迷いの生存におけるすべては苦である(苦)。
- C いかなる存在も不変の本質を持たない(無我)。

大乘仏教の「四法印」

- A 諸行無常: あらゆる現象は、変化してやまない(無常)。
 - B 諸法無我: いかなる存在も不変の本質を持たない(無我)。
 - C 一切皆苦: 迷いの生存におけるすべては苦である(苦)。
 - D 涅槃寂靜: 心の迷いの消えた覚りの境地は静かな安らぎである(寂靜)。
- 「四法印」から、「一切皆苦」を除いたものを「三法印」といいます。

仏教の開祖は？

名前：ゴータマ・シダッタ

時代：紀元前5世紀頃

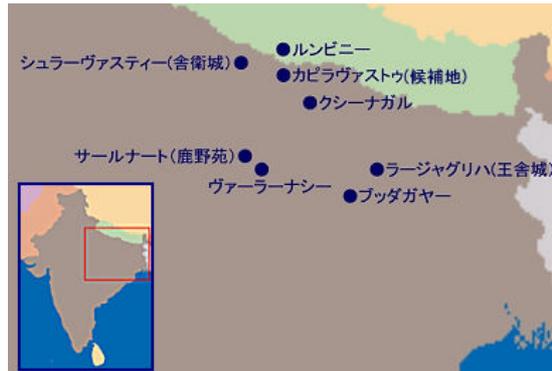
場所：カピラヴァストゥ。(現在、ネパールのタラーイ地方のティロリコオート (Tilori-kot) 付近を中心とする共和国)

父の名：シュドーダナ王

母の名：マーヤー

妻の名：ヤショーダラー

子の名：ラーフラ



お釈迦様の生涯

29歳(一説に19歳)で出家

35歳で成道(ブッダガヤー)

80歳で入滅(クシーナガル)



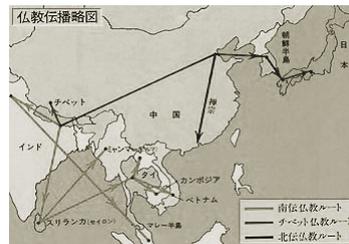
苦行の釈迦像

教団の分裂と南伝仏教と北伝仏教

仏滅後、100年で教団の分裂が始まる。

紀元前3世紀中頃にインドよりスリランカに上座部系の一部派が伝わり、当時の首都アヌラーダプラに大寺(だいじ)が建てられたのが始まりで、このスリランカ上座部大寺派が、ビルマ・タイ・カンボジア・ラオスなどの国々に順次伝わり今日に至っている仏教を南伝仏教と呼びます。この仏教を上座部仏教と言います。

マウリヤ王朝(紀元前317年～紀元前180年ごろ)のガンダーラ統治にはじまり、北インドからガンダーラを経て、中央アジア、中国に伝わり、中国からさらに朝鮮、日本等に伝播したものを北伝仏教と呼びます。この仏教を大乗仏教と言います。

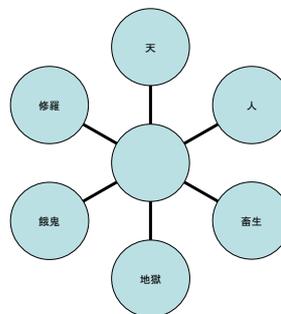


お釈迦様当時のインドの思想

輪廻(วัฏสงสาร): 私たちは、生前の行為つまりカルマ(karuman)の結果、今のような生存となって生まれ変わっている。そのカルマは次々と作られ、次の生へも影響を与える。

六道(ภคิ 6): 私たちは、カルマの結果として、次の六つの領域で生まれ変わっている。

- ・天(สวรรคคิ)
- ・人(มนุษยคคิ)
- ・修羅(อสูรกายคคิ)
- ・畜生(เด็ยรัจทานคคิ)
- ・餓鬼(เปตคคิ)
- ・地獄(นรกคคิ)



お釈迦様の教え

中道(มัชฌิมาปฏิปทา) :

二つの極端に偏った生活を離れることが、覚りへと向かう道。

お釈迦様の教え

四諦(อริยสัจ 4) :

人生に関する四つの真理の意味です。その四つの真理とは、苦諦、集諦、滅諦、道諦です。

苦諦(ทุกข์)

この世は苦であるという真理。

集諦(สมุทัย)

欲望の尽きないことが苦を生起させているという真理。

滅諦(นิโรธ)

欲望のなくなった状態が苦滅の理想の境地で

あるという真理。

道諦(ทุกขนิโรธคามินีปฏิปทา) 苦滅にいたるためには八つの正しい修行方法

(八正道)によらなければならないという真理。

お釈迦様の教え

八正道(มรรคมีองค์ 8) :

覚りへと向かう八つの正しい修行方法(八正道)。

- 正見(สัมมาทิฏฐิ) : 正しい見解。
- 正思(สัมมาสังกัปปะ) : 正しい意志。
- 正語(สัมมาวาจา) : 正しい言葉。
- 正業(สัมมากัมมันตะ) : 正しい行い。
- 正命(สัมมาอาชีวะ) : 正しい生活。
- 正精進(สัมมาวาชามะ) : 正しい努力。
- 正念(สัมมาสติ) : 正しい注意力。
- 正定(สัมมาสมาธิ) : 正しい精神統一。

お釈迦様の教え

縁起(ปฏิจจสมุปบาท) :

因縁とも言います。すべてのものは種々の因(原因・直接原因)や縁(条件・間接原因)によって生じるという考えです。

上座部仏教の修道論

三学(śāṅkhya 3)

仏道を修行する者がかならず修めるべき基本的な修行項目を言います。

1. 戒学 戒律のことであり、「戒禁」(かいごん)ともいい、身口意(しんくい)の三悪(さんまく)を止め善を修すること。
2. 定学 「禅定」(ぜんじょう)を修めることで、心の散乱を防ぎ安静にするための方法を修すること。
3. 慧学 智慧を修めることであり、煩惱の惑を破って、すべての事柄の真実の姿を見極めること。

戒

戒(śīla)とは、覚りを目指す上で、身心を調整して、身心によい習慣をつけること。

- ・五戒(śīla 5) : 在家信者が守るべき五つの決まり。
- ・八戒(śīla 8) : 在家信者がワン・プラに守ったり、メーチャーが守る八つの決まり。
- ・十戒(śīla 10) : 沙弥(7歳以上20歳未満の見習僧)が守る十の決まり
- ・二百二十七戒(śīla 227) : 比丘が守る決まり。

五戒

五戒(在家の人が守る五つの禁止事項)

- ①不殺生戒: 生き物を殺してはいけません。
- ②不偷盜戒: 盗みをしてはいけません。
- ③不邪淫戒: 性的非行をしてはいけません。
- ④不妄語戒: 嘘をついてはいけません。
- ⑤不飲酒戒: お酒を飲んではいけません。

八戒

八(齋)戒(在家信者がワン・プラに守ったり、メーチャーが守る八つの禁止事項)

- ①不殺生戒: 生き物を殺してはいけません。
- ②不偷盜戒: 盗みをしてはいけません。
- ③不淫戒: 男女の性的関係をもってはいけません。
- ④不妄語戒: 嘘をついてはいけません。
- ⑤不飲酒戒: お酒を飲んではいけません。
- ⑥不非時食戒: 午後に食事をしてはいけません。
- ⑦不塗飾香鬘戒不歌舞觀聽戒: 身体を装身具や香で飾ってはいけません。
歌や舞を見たり聴いたりしてはいけません。
- ⑧不坐高广大牀戒: 贅沢な寝床を用いてはいけません。

十戒

十戒(沙弥が守る十の決まり)

- ①不殺生戒:生き物を殺してはいけません。
- ②不偷盜戒:盗みをしてはいけません。
- ③不淫戒:男女の性的関係をもつてはいけません。
- ④不妄語戒:嘘をついてはいけません。
- ⑤不飲酒戒:お酒を飲んではいけません。
- ⑥不非時食戒:午後の食事をしてはいけません。
- ⑦不塗飾香鬘戒:身を装身具や香で飾ってはいけません。
- ⑧不歌舞觀聽戒:歌や舞を見たり聴いたりしてはいけません。
- ⑨不坐高广大牀戒:贅沢な寢床を用いてはいけません。

二百二十七戒

二百二十七戒(比丘の守る二百二十七の禁止事項)

二百二十七戒については、項目が多いので、罪の軽重よって分類によって示すことにします。

- ・波羅夷(4項目):教団(僧伽)を追放になる罪。
淫戒、盜戒、殺人戒、大妄語戒。
- ・僧殘(13項目):大衆の前に懺悔すれば、教団(僧伽)に残れる罪。
- ・不定(2項目):取り上げるべきか否か、どの罪に入れるかはっきりしないものに関する罪。
- ・捨墮(30項目):衣服等を規定以上に所持したときに、それを差し出し、懺悔すれば許される罪。
- ・単墮(92項目):小妄語、両舌などの軽犯罪で、他人に懺悔すれば許される罪。
- ・悔過(4項目):他の比丘に告白懺悔する必要がある罪。
- ・衆学(75項目):衣食住に関する細かい規定を犯す罪。
- ・滅諍諍(7項目):教団内の紛争の解決を怠った罪。

上座部仏教と大乘仏教の違い

上座部仏教	日本の仏教
阿羅漢	仏陀
自利	利他
227戒	58戒(実際は無いに等しい)
お釈迦様一仏	多仏
パーリ語	漢文(サンスクリット)
比丘、比丘尼	菩薩

タイの人々と仏教

人口の約95%が上座部仏教
キリスト教(0.6%)
その他イスラム教(4%)、

およそ、国民のうちの94%が上座部仏教となっています。

多くの民衆が、仏教と係わっていますが、仏教に関してどのような信仰を持っているかを、仏教の側から見てみたいと思います。

三福業

カルマと六道輪廻そして積善業

善を積むには三福業(ရတနာဒမ္မ 3)。

- ① 布施をすること。
- ② 道徳や戒律を守ること。
- ③ 瞑想によって心を向上させること。

タンブン

タンブンの動機:

- ・祖先や亡くなった父母、おじおば、兄弟などの故人に追善供養するタンブン。
- ・現世や来世に自分が幸せになるように行うタンブン。
- ・憎しみあっていたが、亡くなってしまった人に行うタンブン。
- ・供養をする人がいない霊に行うタンブン。
- ・先生や両親等の尊敬する人に行うタンブン。

タンブンする対象:

仏陀や仏弟子への布施、寺や教団(僧伽)

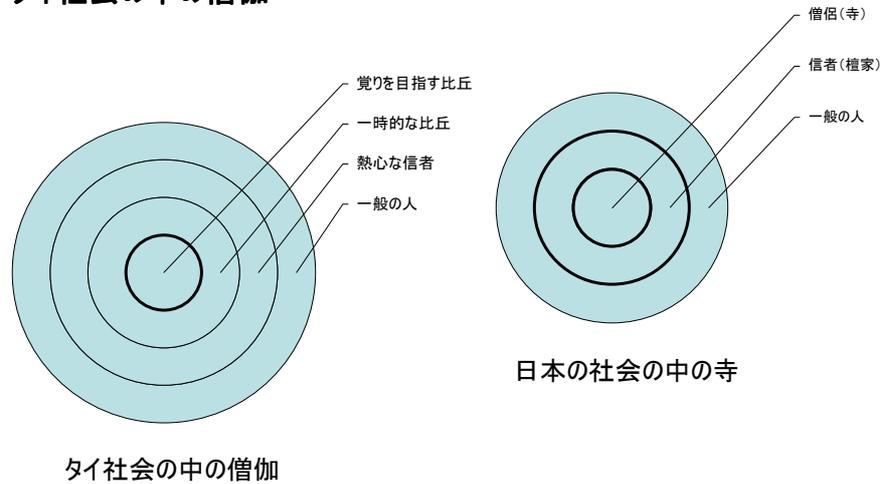
タンブンをを行う時

- ・誕生日のタンブン。
- ・結婚のタンブン。
- ・葬式のタンブン。
- ・新築のタンブン。
- ・開業のタンブン。
- ・仏教で重要な日のタンブン(たとえば、
 - ワン・ウィサーカブーチャー: 仏陀の降誕・成道・般涅槃を記念する日。
 - ワン・マーカブーチャー: 1,250人の覚りを開いている仏弟子が偶然に一堂に会したことを記念する日
 - ワン・アーサーンハブーチャー: 仏陀が初めて説法をした初転法輪を記念する
- ・托鉢のタンブン。
- ・入安居、出安居(三ヶ月間の雨期の定住に入る際と出る際)のタンブン。
- ・新年のタンブン(ソクラーン)、等々。

タンブンする物

- ① 食物。
- ② 水などの飲み物。
- ③ 衣服の布。
- ④ 運賃を含む移動への援助。
- ⑤ 花輪や花。
- ⑥ 線香や蠟燭。
- ⑦ 石鹸等の身体を清潔にする衛生用品。
- ⑧ 修行者に必要な寝具。
- ⑨ いすやベッドのような僧坊または比丘や沙弥の住まいにあるもの。
- ⑩ ろうそく、ランプ、電灯などの明かり。

タイ社会の中の僧伽



出家の要因

1. 成人するため。
2. プンを両親に献上するため。
3. 宗教的な行為を通して良い仏教徒になる。
4. 罪の消去(刑務所を出てから一時期間、僧になる習慣がある)。
5. 配偶者及び家族の死去で、支えてくれる家族がない。
6. 教育を受けるため。

朝のタンブン

朝の托鉢の時のタンブンのしかた

さて、私たちがよく見かけることができ、私たちが手軽に行えるタンブンは、托鉢のタンブンです。托鉢に回る時刻や托鉢の時のスタイルについては、地方によって多少の違いがあります。たとえば、田舎の方だと時刻は朝七時とか、托鉢に回るとき比丘が鐘をたたきながら回るとか……。ここでは、チェンマイの町中でのタンブンを例に取って見てみましょう。

早朝、五時から六時頃、比丘や沙弥は托鉢に回ります。七時には、すでに托鉢は終わって、お寺に戻っています。ですから、それ以前に、差し上げる物を用意します。タンブン用の蓮の花や小袋に分けてある食べ物などは市場で売っていますので、当日それらを市場で買い求めるのが、私たちには手頃です。準備する小袋の数量について、特に規定はありません。タイ人は縁起のよい数字として「九」を好みますので、九袋用意してもいいでしょう。



朝のタンブン

托鉢の時、比丘や沙弥は一点を見つめるように脇目も触れず、一人であるいは数人で縦隊を組んで、早足で歩きます。比丘や沙弥が近くに来たら、合掌して、「ニモン・クラブ(女性の場合は「ニモン・カ」。「おいください」「お招きします」の意味)」と、比丘を呼び止めます。比丘は立ち止まり、鉢のふたを開けますので、履き物を脱いで、用意した蓮の花や小袋に分けてある食べ物を差し上げます。蓮の花は開いた鉢のふたに載せ、食べ物は小袋のまま鉢の中に入れます。差し上げる袋の数についても規定はありません。たとえば九人での縦隊の場合、一人に一袋ずつ九人に差し上げても、一人に九袋全部差し上げても、また、九袋のうち五袋だけを差し上げてもかまいません。鉢に差し入れ終わったら、合掌してかがみます。すると、比丘は「・・・アーユ・ワンノー・スukkan・パラン(「寿命が延びますように、幸福が訪れますように」との意味)」と経文を唱えますので、その間、願い事を心の中で唱えながら、合掌してかがんでいます。経文を唱え終わると比丘は立ち去りますので、これで、托鉢のタンブンは終わります。

朝のタンブン

比丘や沙弥は、どの曜日にはどこの家がタンブンをするかを知っていますから、托鉢に回るコースは必然的に決まっています。ですから、できれば、前日にタイ人にどこでタンブンができるか尋ねておいた方がよいでしょう。分からない場合は、市場周辺が場所としては確実です。お寺の境内でも托鉢のタンブンをすることはできますが、お寺によっては、檀家が食事を寺に運び、比丘や沙弥が托鉢に出ない場合もありますので、私たちが托鉢のタンブンする場所として境内を選ぶのはあまり確実ではありません。



みなさんに考えてもらいたいこと

本当の豊かさって何？